

〔研究論文〕

British Library に所蔵される保育唱歌の墨譜について

東元りか

1. はじめに

保育唱歌とは、その総数約100曲¹⁾におよぶ本邦にて最初の教育用唱歌である。その撰譜は、明治10(1887)年から数年にわたる。保育唱歌は、雅楽家や保育唱歌創作に携わった保母らによって、ある程度の曲数をもって一冊から数冊にわたってまとめられており、その楽譜は雅楽の伝統的な書法に倣い、手書きの墨譜によるものである。収録された曲数、曲目、曲順、記載内容には保育唱歌譜それぞれに差異がみられる(以下、まとめられ綴られた保育唱歌の楽譜のことを『保育唱歌譜』と表記する)。

これまでの保育唱歌研究において、最初のものに平出久雄著「『保育唱歌』覚書」が挙げられる。この研究は、旧楽家所蔵の史料および墨譜をもとに、保育唱歌曲目を一覧として発表し、保育唱歌研究の発端として課題を提議した。その後、芝祐泰著「保育並遊戯唱歌の撰譜」(江崎 1991 所収)では、芝家所蔵の史料から、保育唱歌撰譜に関する成立過程や、伝習および奏楽についての状況が明らかにされている。さらに、墨譜を五線譜化するという業績を残し、これら基礎研究を元に、伊吹山(1979)、久保(1993、1994)、本多(1997)、大畑(2001)のような保育唱歌の音楽面における分析研究がおこなわれている。また、藤田(1978)、外山(1978)によっては、当時の東京女子師範学校附属幼稚園の状況、保育唱歌との関わりが整理されている。さらに、保育唱歌創作の際、参考にしたとされる、D. Adolf Douai 著 *The Kindergarten: a manual for the Introduction of Froebel's System of Primary Education into Public Schools, and for the use of Mothers and Private Teachers*、および Mrs. Horace Mann and Elizabeth P. Peabody 著、*Moral Culture of Infancy and Kindergarten Guide: with Music for the Plays* (関信三(訳)『幼稚園記』)、Johann and Bertha Ronge 著、*A Practical Guide to the English Kindergarten: for the use of Mothers, Governesses, and Infant Teachers: being an Exposition of Froebel's System of Infant Training* (桑田親吾(訳)『幼稚園』)等の原著に収録の唱歌を、実際に保育唱歌と対照させ、その関係性を示した。近年では伶人の作曲活動という視点から保育唱歌の系譜を追うといった歴史的側面からの中村(2009)の研究もみられる。

先に、『保育唱歌譜』にみられる情報には、写本それぞれに若干の差異がみられることを述べたが、『保育唱歌譜』という原史料の情報を今一度整理することは、保育唱歌基礎研究を見直す上でも意義のあることと考える。特に、これまで『保育唱歌譜』については、国内所蔵のもので語られてきたが、海外に所蔵された『保育唱歌譜』については詳細に触れられてこなかった。今回、筆者は、British Library において『保育唱歌譜』を閲覧する機会に恵まれた。本稿では、現時点で確認し得る国内外所蔵の『保育唱歌譜』を整理し、特に British Library の『唱歌譜』については、所蔵の状況とその内容について概略を述べ、さらに国内の『保育唱歌譜』と比較検討することを目

的とする。

2 『保育唱歌譜』の所蔵状況と収録曲目

『保育唱歌譜』の国内の所蔵については、本多佐保美著「明治期新作雅楽唱歌(保育唱歌)の音楽的性格—明治初期における和洋折衷唱歌の具体」や、藤田芙美子著「保育唱歌研究—フレーベル式幼稚園唱歌遊戯移入の経緯を中心として—」の中でも複数の報告されているが、現在、所蔵の確認ができた『保育唱歌譜』を【表1 『保育唱歌譜』所蔵一覧】に示した。また、それら所蔵本に収められている曲目をリスト化した【表2 『保育唱歌譜』一覧表】。『保育唱歌譜』の中には琴譜、箏譜が含まれている場合もあるが、この一覧表には反映させなかった。まず、各『保育唱歌譜』において曲題の初出順に数字を付した。その譜から同曲と思われるものでも写本によって曲題の表記に違いがあったので、一覧表の曲題の欄には、すべての表記を記載した。ただし、PC上で表記不可能の字体は■とし、その後に片仮名で〔 〕内に記した。

①は、British Library 所蔵の『唱歌譜』巻1-6、②は、東京芸術大学所蔵の『唱歌譜』巻1-5であるが、音楽取調掛の所蔵印が押されている。③は、前出平出の論文にある保育唱歌一覧表に記載の曲目を順に並べたもの、④は、前出芝の写本に記載のものを曲順に並べたものである。〈王昭君〉は、節博士の記載がなく、詞章のみであったが、曲目に数えた。また、【表2】通番号70-76は、目録部分における記載はなかったが、譜は収録されていた為、曲数に数えた。⑤は、上野学園大学日本音楽史研究所所蔵の『保育唱歌 遊戯』、これは明治18年に恒川重光によって写されたものを、さらに稲葉與八が写した譜である。⑥東友弘家の史料は、唱歌譜最終頁に「右保育唱歌譜令調査者也 明治十八年八月 従九位林廣継 印 明治二十有三年十月寫之」とあり、この写本は、調律旋ごとに曲がまとめられている。そういった意味合いでは、⑤『保育唱歌 遊戯』と収録の傾向が似かよっている。⑦は、お茶の水女子大学附属図書館に所蔵される『保育唱歌』であるが、表紙に「明治16年」と書かれており、当時東京女子師範学校に在学していた清水たづ（のち、下田たづ）によって写されたもの、と考えられる。清水たづは、1885年（明治18）7月に東京女子師範学校師範科を卒業後、大阪市西區幼稚園保母、東京市麹町區麹町女子小學校訓導を務め、1887年（明治20）から1914年（大正3）まで27年間は、東京女子高等師範学校附属幼稚園に保母兼生徒監として奉職した。⑧⑨は、豊喜秋による墨譜であるが、3巻に分かれ、各巻の表紙に『幼稚園保育唱歌 雪』『幼稚園保育唱歌 月』『幼稚園保育唱歌琴譜 花』と書かれている。琴譜である『幼稚園保育唱歌琴譜 花』は、この一覧表に対応させなかった。奥付に「明治14歳3月」とある。豊喜秋（1848-1920）は、実際に保育唱歌の撰譜に関わった人物である。⑩は、同じく豊喜秋による写本であるが、上野学園大学日本音楽史研究所に複製本が所蔵されており、それを参照した。⑪は、京都で発行されたといわれている印刷譜であるが、ところどころに節博士が欠けている曲もみられる。しかしながら、曲題が記載されているものはすべて曲数に入れた。⑫は、上野学園大学日本音楽史研究所に所蔵されている写本であるが、書者、筆者は明らかでない。⑬-⑮は、三

田小松子旧蔵の写本、全 4 冊本のうちの三冊であるが、七声唱歌の巻が欠けている。⑫と⑬-⑭を比較すると、収録の状況が近いことがうかがえる。⑯は、宮内庁書陵部所蔵『雅楽録』に所収の墨譜である。⑰は、上野学園大学日本音楽史研究所の『唱歌譜』で、恒川重壽写本をさらに稲葉興八が写したものである。保育唱歌を含む唱歌の、琵琶・箏・笙・笛・箏篳の譜が曲ごとに収められている。保育唱歌の唱歌譜は〈かひある千世〉〈木毎乃花〉〈花橘〉〈學道〉の 4 曲が所収されているが、一覧表には収録曲 4 曲を○と表記した。⑱未整理の墨譜（書者、筆者不明）としたが、これは上野学園大学日本音楽史研究所に所蔵される墨譜で、未整理のものである。曲順が明らかでないので、墨譜に記載の曲題については数字化せず○とした。⑲はお茶の水女子大学附属図書館所蔵の『幼稚園唱歌』（書者・時期不明）であり、墨譜ではなく歌詞集であるが、比較の為に一覧表に反映させた。歌詞集には開誘歌、四季、勤学、修身などの朱字による分類がみられる。これは歌詞内容から分類し、幼稚園での教授においての参考にしたとも考えられる。

以上の収録曲を一覧表【表 2】に整理した結果、それぞれの『保育唱歌譜』に収録の曲目数、曲目、曲順、全てが完全に一致するものはなかった。しかしながら、③東京芸術大学附属図書館所蔵の唱歌譜と④British Library に所蔵される唱歌譜とは、その収録の状況が近い。この点については、「3. British Library 所蔵の『唱歌譜』」にて記述する。

写本期日が明らかである『保育唱歌譜』の中で、もっとも古い年代にあるものが、⑧⑨豊喜秋の写本であるが、上申年月不明【表 2】通番号 91 - 100 のものは収録されていない。次に写本期日が明らかなのは、⑦明治 16 年清水たづによる写本であるが、これには、上申年月不明のもののうち、【表 2】通番号 91 - 100 が収められている。つまり、上申年月不明の【表 2】通番号 91 - 100 は、少なくとも明治 16 年までには作曲されていたもの、と判断できる。同じく、上申年月不明の【表 2】通番号 82 - 90 であるが、これらは、実際に幼稚園教育の中でも用いられ、これらはもっとも初期の段階に作曲されたとの見解がある²。

3. British Library 所蔵の『唱歌譜』

3-1. 『唱歌譜』の概要

British Library で確認された『唱歌譜』の書誌情報は以下のとおりである。題字『唱歌譜』、写、全 6 巻を一冊にまとめたもの、全 344 丁、美濃本、假綴、表紙おもてに「No. 105 原價壹圓五拾銭」「第二拾貳號 唱歌譜」との記載。ハードカバーの背表紙に、「YAMANO-I KIHŌ」「SHOKAFU」「JAPANESE SONGS」「6MAKI」「Or4702」とあり、収録曲は、全 96 曲である。この『唱歌譜』は、最初に British Museum に所蔵された後、British Library へと渡っている。British Museum の所蔵に至った状況は明らかではないが、ハードカバーの裏表紙おもての頁に鉛筆書きで「bought of m.nijhoff. july 22, 1893」とあり、British Museum の所蔵印と合致している。第 6 巻の唱歌譜最終頁（344 丁裏）には、鉛筆書きで「Or4702, 344 folios Dec 1909」、第 1 巻表紙から第 6 巻の終わりまで、頁の通番号が付されている。Or4702 とは、現在の British Library にお

ける請求番号である。

3-2 『保育唱歌譜』相互間の比較

収録曲という観点から判断すれば、British Library の『唱歌譜』巻1-5と、東京芸術大学附属図書館所蔵の『唱歌譜』全5巻に収められている曲数は計81曲、その曲目、曲順は同一であった。また、改行、改頁の表記も同じようにおこなわれている。一見、同じものからの写本、あるいはどちらかを参照して写したものという可能性も考えられるが、譜部分、詞章部分を細部まで比較していくと、いくらかの相違部分がみられる。相違部分を抽出し、比較すると、その傾向は、以下の点に分けることができた。

①詞章部分においては、⑦濁点（カ⇄ガ、ハ⇄バ等）の相違、④字体が似た文字の片仮名の表記（コ⇄ロ、ヲ⇄ヨ等）の相違、⑨文字と文字の間にある線がどちらかに引かれていない、⑤フレーズの切れ目を示す白丸「○」がどちらかに書かれていない、という点である。②譜部分においては、④宮・商・角・徴・羽等の律名がどちらかに書かれていない、あるいは表記違い、⑦博士部分、音高を示す線「——」「〰」等の表記がどちらかに書かれていない、⑥律名の下にある「○」「●」の表記がどちらかにない、あるいは表記が逆である、⑧拍節の段落の拍点であり、笏拍子を打つ点でもある「百」がどちらかにない、あるいは「百」の表記が「○」となっている。これらについては、【譜例1】～【譜例8】に一例を示した。③その他、詞章、墨譜以外の部分での相違（頁の落丁、または頁の重複等）である。

①詞章部分において、⑦濁点の相違は13箇所あった。【譜例1】のように〈冬燕居〉「イカバカリ」の「バ」の文字の清濁の相違であるが、British Library の『唱歌譜』（以下⑩と略す）では「ハ」に、東京芸術大学附属図書館所蔵の『唱歌譜』（以下、⑪と略す）、芝の写本（以下、⑫と略す）、清水たづによる『保育唱歌』（以下、⑬と略す）、東家の『唱歌』（以下、⑭と略す）では「バ」となっている。④似た表記の片仮名の表記の相違は8箇所、【譜例2】のように〈民草〉の「コ」の文字が⑩では「ロ」となっている。⑤⑪⑫の写本では、「コ」となっている。歌詞の意味から考えれば「ヨ」である可能性が高い。⑨文字と文字の間にある線がどちらかに引かれていない部分（【譜例3】参照）は9箇所あるが、他の写本と比較すると、⑩『唱歌譜』の線部分が抜け落ちているものと考えられる。⑤フレーズの切れ目を示す白丸「○」がどちらかに書かれていない部分は59箇所あり（【譜例4】参照）、それらは⑫に「○」の記載があつて⑩に無かつた。

②譜部分においては、④宮・商・角・徴・羽等の律名がどちらかに書かれていない部分、あるいは表記違いが8箇所（【譜例5】参照）あった。律名の抜け落ちに関していえば、⑫に記載があつて⑩に無かつた。⑦博士部分、音高を示す線「——」「〰」等の記載がどちらかに書かれていない部分（【譜例6】参照）は24箇所あった。⑥律名の下にある「○」「●」の記載がどちらかにない、あるいは白黒が逆である部分（【譜例7】参照）は89箇所あった。⑧拍節の段落の拍点であり、笏拍子を打つ部分でもある「百」がどちらかにない、あるいは百の代

わりに「○」となっている部分は16箇所あった（【譜例8】参照）。

それら相違部分を、①詞章部分と同じように他の『保育唱歌譜』と比較したところ、①『唱歌譜』の記載が他の『保育唱歌譜』のどれかと完全に一致することはなかった。また、相違部分の大部分は、⑤『唱歌譜』とその他の『保育唱歌譜』に共通であることが多い。

③その他、①『唱歌譜』には、「家鳩」の譜の冒頭部分が欠けており、これは、⑤と比較し、他の『保育唱歌譜』とも比較した場合、「家鳩」の曲題を含めた一丁の落丁の可能性が考えられた。また、①『唱歌譜』9丁と10丁は、まったく同じ内容の墨譜であるが、詞章の流れや、他の『保育唱歌譜』と比較した場合から考えても、単に重複して書かれたものと考えられる。また、⑤『唱歌譜』の巻1-5の表紙裏には、その巻ごとの目録が書かれているが、①『唱歌譜』には目録がない。

上記では、2つの『保育唱歌譜』相互間の相違部分について述べたが、①『唱歌譜』巻1-5と、⑤『唱歌譜』全5巻にみられる記載事項、表記が共通であっても、他の『保育唱歌譜』とは情報が異なる部分について取り上げる。その一つに、【表2】通番号9〈遊魚〉がある。この曲は、重複して2度記載のある曲であるが、どちらの写本においても、歌詞、節博士共、同じように写譜がおこなわれ、重複して書かれている。また、明治12年5月10日に上申された、通番号40〈人之道〉の撰譜者、東儀彭質の等級が五等伶人と記載されているが、この時、東儀彭質は三等伶人³⁾であり、他の『保育唱歌譜』には、三等伶人と記載されている。また、通番号34〈子日遊〉一段において、「フタハニチヨ」の「ヨ」部分の墨譜部分、「——」「〰」等が記されていないが、他の『保育唱歌譜』には記されている。同様の例は、〈家鳩〉一段部分にもみられる。

さらに、収録曲という観点からみた場合、お茶の水女子大学附属図書館所蔵の『幼稚園唱歌』の収録曲は①『唱歌譜』全6巻の全てを網羅している。『保育唱歌譜』の詞章は、全て片仮名表記、『幼稚園唱歌』歌詞集は平仮名と漢字表記であり、その表記方法は異なる。また、『幼稚園唱歌』には、朱書きでの濁点の訂正、加筆などが多くみられるが、①『唱歌譜』と清濁が異なる部分があった。曲順をみた場合、【表2】通番号82-90が『幼稚園唱歌』では冒頭に、①『唱歌譜』では最後尾部分に収録されている。

4. まとめ

以上、British Library で所蔵される『唱歌譜』の概要を述べるとともに、東京芸術大学附属図書館所蔵の『唱歌譜』相互間の比較を試みた。収録曲という点で似た傾向にある東京芸術大学附属図書館所蔵『唱歌譜』とBritish Library『唱歌譜』の、二つの写本間にある共通点と、相違部分を明らかにすることができた。その結果、現在確認のとれる『保育唱歌譜』の中で、この2つが最も写本の状態に近いものと考えられた。『保育唱歌譜』は写本であることから、全く同じものが2つ存在することは無いに等しいが、この2つの写本においては、収録の状況が近いことから、写本としては同系統である、と推察することも可能であろう。これまで確認された『保育唱歌譜』

からは、どの譜を基とし写本をおこなったかというような、写本のルーツを検討するのは難しいが、今後は他の『保育唱歌譜』とも詳細に比較し、その関連性を見出していきたい。

脚注

- 1) 保育唱歌の曲数の数え方には、様々な考慮すべき点、見解がある（江崎 1991、頁 30 - 31）、（藤田 1978、頁 356）が、一曲題の歌詞を一曲目と数え整理した。
- 2) （倉橋；新庄 1943、頁 247、5 - 8 行目）、（中山 2004、頁 182）。
- 3) 宮内省式部寮雅楽課に於いて、明治 10（1877）年 10 月 31 日付で、東儀彭質は三等伶人に任命されており、明治 17（1884）年 10 月 3 日に、雅楽師（十二等）となる。
- 4) 写すことで生じる『保育唱歌譜』間の相違については、下記からもうかがうことができる。「明治十年東京女子師範學校ヨリ依頼ニテ續々撰譜相成候保育唱歌之儀該校幼稚園ニ於イテ追盛大ニ相趣且他ノ一二府縣ニ於テモ學校ニ相用候趣伝承仕候然ルニ右譜本ハ本所ヨリ該校ヘ送付ノ一本ヲ以テ各生徒書写致候儀ニ付間々誤写有之夫カ為掟音上ニ紊乱ヲ生シ不都合不少候依テ當初ヨリ昨年中撰譜之分彫刻シー小本ニ仕立需求者ニ相與ヘ候者書写ノ勞ヲ除キ随而誤写ノ弊害モナシ之議ト思考仕候ニ付私カヲ以ッテ右彫刻仕度此段相伺候也 本文女子師範學校ヘハ兼而照会仕候処該校ニ於テハ差仕無之趣ニ御座候間此段申上置候」（林廣守は、明治 14 年に自費出版を願ひ出て、雅楽課から保育唱歌の出版に関しての伺い書が出されている。明治十四年一月二十八日付の「雅楽録」より）。

【主要参考文献】

伊吹山 真帆子

1979 「保育唱歌について」『東洋音楽研究』第 44 号：1 - 26.

江崎 公子（編）

1991 『音楽基礎研究文献集』第 15 巻：東京：大空社.

大畑 耕一

2001 「「保育唱歌」に関する一考察」『藤女子大学紀要』第 39 号：97 - 104.

久保 正美

1993 「保育唱歌の和琴伴奏について」『和歌山大学紀要』第 40 号：41 - 50.

1994 「「保育唱歌」に関する研究—「保育唱歌」と雅楽の旋律の比較」『和歌山大学紀要』第 41 号：71 - 79.

倉橋 惣三；新庄 よしこ

1943 『日本幼稚園史』東京：フレーベル館.

塚原 康子

2001 『近代雅楽制度の研究—戦前期の宮内省式部職楽部を中心に—』平成 10 - 11 年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2）研究成果報告書）.

外山 友子

1978 「幼稚園唱歌事始」『東洋音楽研究』第43号：1 - 51.

中村 真由子

2009 「明治期の宮中における作曲活動—保育唱歌の系譜—」『東洋音楽研究』第74号：25 - 46.

中山 エイ子

2004 「『保育唱歌』の古歌について」『日本学研究』第7号：151 - 200.

平出 久雄

1943 「保育唱歌覚書—附・国歌「君が代」小論考」『東亜音楽論叢：田辺先生還暦記念』東京：第一書房：603 - 641.

藤田 英美子

1978 「保育唱歌研究—フレーベル式幼稚園唱歌遊戯移入の経緯を中心として—」国立音楽大学創立五十周年記念事業企画委員会（編）『創立五十周年記念論文集』329 - 369.

本多 佐保美

1997 「明治期新作雅楽唱歌(保育唱歌)の音楽的性格—明治初期における和洋折衷唱歌の具体」『千葉大学教育学部研究紀要 2 人文・社会科学編』第45号：93 - 103.

GOTTSCHEWSKI, Hermann

2002 「*Hoiku sho-ka* and the melody of the Japanese national anthem *Kimi ga yo*」『東洋音楽研究』第68号：1 - 17, 23-24.

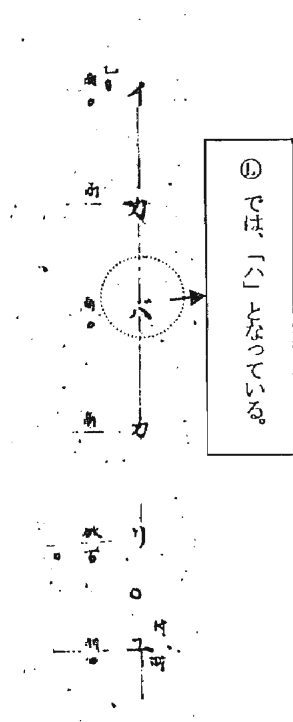
ひがしもと りか

お茶の水女子大学卒業、同大学大学院博士前期課程修了（人文学）。現在、同大学院博士後期課程在学中。

【譜例】

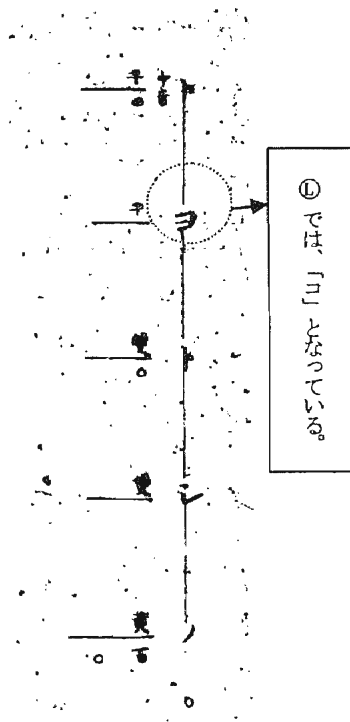
※囲み線挿入は東元による。ここでは、東京芸術大学を「芸大」、British Library 所蔵の『唱歌譜』を①と表記する。

【譜例 1】



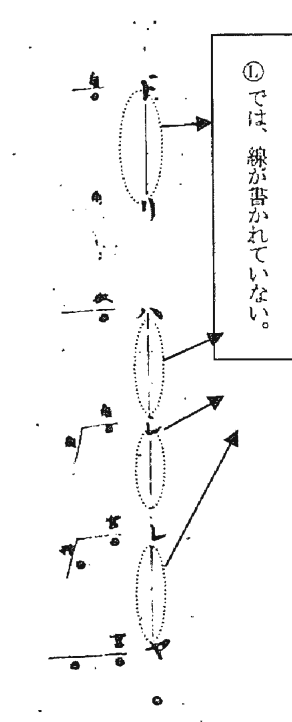
【芸大所蔵『唱歌譜』〈冬燕居〉】

【譜例 2】



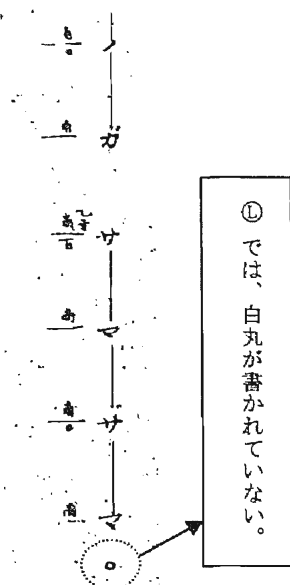
【芸大所蔵『唱歌譜』〈民草〉】

【譜例 3】



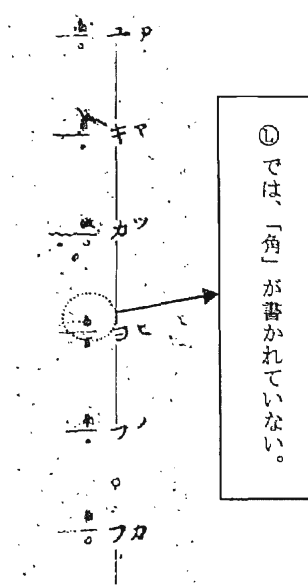
【芸大所蔵『唱歌譜』〈兎〉三段】

【譜例 4】



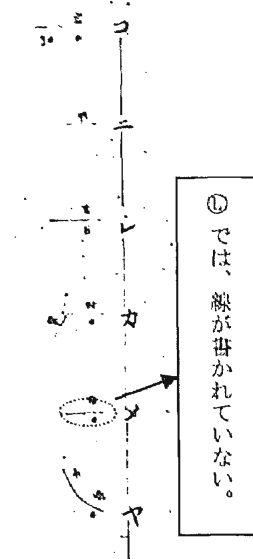
【芸大所蔵『唱歌譜』〈百鳥〉三段】

【譜例 5】



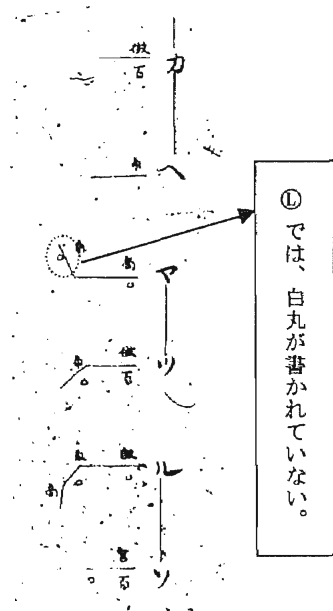
【芸大所蔵『唱歌譜』〈學校往來〉】

【譜例 6】



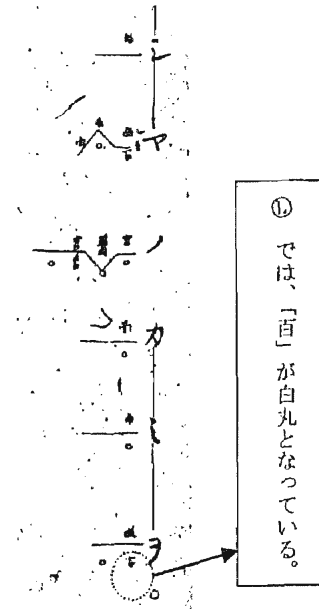
【芸大所蔵『唱歌譜』〈白カネ〉】

【譜例 7】



【芸大所蔵『唱歌譜』〈ヲシヘノ道〉】

【譜例 8】



【芸大所蔵『唱歌譜』〈鹿島神〉】

【表1】『保育唱歌譜』所蔵一覧】(東元作成)

題字	所蔵場所	形態	書者または写譜をした人物、年代等
①『唱歌譜』	British Library	全6巻	
②『唱歌譜』	東京芸術大学附属図書館	全5巻 音楽取調掛の所蔵印有	
③『保育唱歌一覧』		『保育唱歌一覧』として論文中に収録	平久雄作成の一覧表
④『保育並二遊戯唱歌譜前・後』		『音楽基礎研究文庫』第15巻に所収	芝村義彦「保育唱歌」芝村義彦(写)
⑤『保育唱歌 遊戯』	上野学園大学日本音楽史研究所	稲葉氏旧蔵楽書類	明治18年恒川重光写本をさらに稲葉與八が写したもの(昭和10-11年、未入れ13年)
⑥『唱歌』		「南都柏姓楽家東友弘家文書」収録(CD-ROM)小林写真工業株式会社	明治18年8月に林廣継が調査し写譜させたものをさらに東家が写したもの「明治二十有三年十月寫之」と記載あり
⑦『保育唱歌』	お茶の水女子大学附属図書館	全1巻	清水たづ(写)、明治16年
⑧『幼稚園保育唱歌譜雪』	早稲田大学図書館	『幼稚園保育唱歌譜雪』『幼稚園保育唱歌譜花』の全3巻、うち一巻「花」は琴譜	豊喜秋(写)、明治14年3月
⑨『幼稚園保育唱歌譜月』	早稲田大学図書館	『幼稚園保育唱歌譜雪』『幼稚園保育唱歌譜月』『幼稚園保育唱歌譜花』の全3巻、うち一巻「花」は琴譜	豊喜秋(写)、明治14年3月
⑩『保育唱歌譜』	上野学園大学日本音楽史研究所	全1巻(複製本)、豊家案譜目録36	豊喜秋
⑪『唱歌の手飛かへ』	関西大学図書館	全1巻	明治16年印刷
⑫『五声遊戯 保育唱歌』	上野学園大学日本音楽史研究所	全1巻	
⑬『五声唱歌譜』	上野学園大学日本音楽史研究所	三田小松子旧蔵4冊本(七声欠)稲葉氏旧蔵楽書類	書写年不明 最終頁に三田小松子と記載あり
⑭『遊戯唱歌譜』	上野学園大学日本音楽史研究所	三田小松子旧蔵4冊本(七声欠)稲葉氏旧蔵楽書類	書写年不明 最終頁に三田小松子と記載あり
⑮『高等唱歌譜』	上野学園大学日本音楽史研究所	三田小松子旧蔵4冊本(七声欠)稲葉氏旧蔵楽書類	書写年不明 最終頁に三田小松子と記載あり
⑯『雅楽録』に所収の墨譜	宮内庁書陵部	『雅楽録』式部職案部に所収。(風軍)〈冬燕居〉は明治10年11月14日付、〈君方代〉は明治13年10月30日付、〈篠心〉〈科戸ノ風〉明治15年3月23日付の文書と所収	
⑰『唱歌譜』	上野学園大学日本音楽史研究所	唱歌譜は〈かひある千世〉〈木毎乃花〉〈花摘〉〈學道〉が所収	恒川重壽写本をさらに稲葉與八が写したものの、昭和11年
⑱ 記載なし(未整理の墨譜)	上野学園大学日本音楽史研究所		
⑲『幼稚園唱歌』	お茶の水女子大学附属図書館	歌詞集全1巻	

【表2『保育唱歌譜』一覽表】(東元作成)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

※①(遊魚)は、重複して収録されている。

※②(梓弓)の右側に、朱字で「唐季の浦」が書かれている[55]、[80]は辻高野聖徳のもの。

※③(山下木)は岡白鳳、同歌國で、(山所鳥)同資のものと、壘喜秋預備のものとが収録されているが、それぞれを一曲として数えた。

※④この同章のみ朱字で書かれている。